

宇宙海賊学園ブラックキャット

Kyphosus

挿絵/しまちよ



立ち読み版



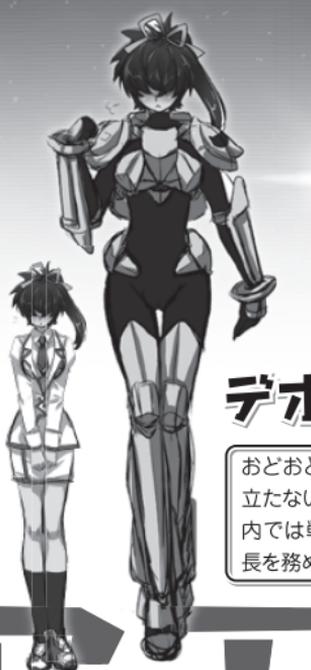
セステイ

ブラックキャット号の操縦長。天才的な技術の持ち主であらゆる兵器を操る。ルーリットに対し倒錯的な愛情を見せつける少女。



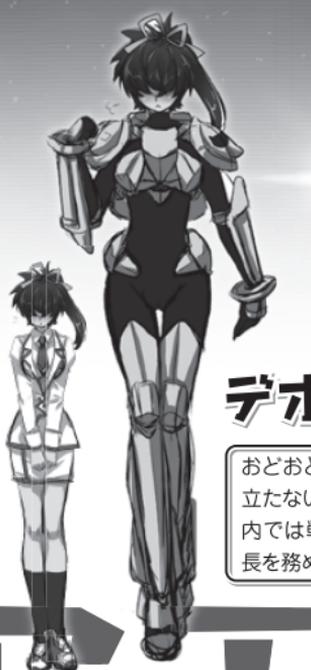
ルーリット

学園宇宙船「フェリカ航宙学園」の生徒会長。礼儀正しく成績優秀、スポーツ万能と、学生たちの憧れの的だが、その素顔は銀河を騒がす宇宙海賊「ブラックキャット」の首領。



ウィネー

ブラックキャット号でオペレータとしてバックアップを務める少女。腕利きのハッカーにして強烈な毒舌家でもある。



デオディケー

おどおどした性格で学園内では目立たない学生だが、ブラックキャット内では戦闘スーツをまとい突撃隊長を務める、隠れ体育系少女。

ランダル

「モード」のやり方に疑問を持ちつつも、忠実に職務を果たそうとする海賊取締官。二十代前半の赤毛の青年。

ギョー

ランダルの相棒。お気楽なヒゲ中年で、「モード」は気に入らないが、仕事は仕事と割り切っているベテラン。

カラツパ

「モード」の高級商人のカニ型エイリアン。海賊を退治して、「モード」内での階級をさらに上げようと執念を燃やす野心家。

ダイジースピン

航宙学園の美人教官兼、ブラックキャット号の航海士としてルーリットをサポートする。かつては海賊として鳴らしていたらしい？



キリア

フェリカ在籍中の、軍事大国「フレカラ騎士団国」の総長の娘。プライドが高く、学園トップのルーリットをライバル視している。

■モードとは？

銀河系外から入り込んできたといわれる、高度テクノロジー製品を扱う宇宙的商業システム。その実体は宇宙規模のマルチ商法であり、その傘下に収められてしまった惑星は、自ら他惑星を侵略して自分の下（ダウンストリーム）につけないと経済破綻してしまう。



ドロラ

カラツパの秘書で、二十代後半くらいの妖艶な地球人女性。一見カラツパには忠実なように見えるが……？



❖テクノロジー関連❖

■ワープリンク

私たちの宇宙は、高次元空間では紙くすをくしゃくしゃに丸めたような構造しており、そのため離れた二つの空間がくっつく点があり、それを『ワープリンク』と呼びます。宇宙に点在する『ワープリンク』を通ることで、容易に恒星間航行を行うことが可能になりました。

■セカンドスキン

厚さ一ミリ前後の極薄スキントイト宇宙服です。本来は船内で事故に備え着用するもので、与圧下では表面の微細孔が開き、通気性を保ちます。汗や体液の処理機能も一応組み込まれておりますが、限界がありますので下着と同様、毎日交換しましょう。

■ドローン

遠隔操作可能な大型ロボット類の総称。基本的に無人で、量子ブリッジと呼ばれる超光速通信で操作されています。強力なスラスタを搭載した宇宙戦闘機タイプ、手足を備えた局地戦タイプ、各種作業用の非武装タイプなど目的にあわせた様々なタイプが存在します。

❖武装関連❖

■アド・アームズ

肩に取り付ける、自律動作型のパワーアームです。元々は港湾や土木作業で使われていたもので、大昔の工作機器の愛称と呼ばれていたことも。現在では、様々な武器を取り付け、白兵戦用の武装としても使用されています。

■スーダクタ・ウィップ

超展性合金で作られた伸縮自在の鞭で、切れ味は従来の『鞭』と同じですが、変形速度が非常に早く、金属にあるまじき可変性を備えています。

もっと情報を？

はい いいえ

FeliCa Cosmonautics Academy

ようこそ！ フェリカ航宙学園へ！！

学園概要

学科案内

施設・設備

進路情報

用語解説

ここでは、航海士になるにあたっての基礎的な知識を学んでいきましょう。

▶ 惑星／組織関連

フェリカ航宙学園 >>>

惑星タナイス >>>

タナイス航路警備局 >>>

フレカラ騎士団国 >>>

宇宙海賊ブラックキャット >>>

▶ テクノロジー関連

ワープリンク >>>

セカンドスキン >>>

ドローン >>>

▶ 武装関連

アド・アームズ >>>

スーダクタ・ウィップ >>>

入試案内

❖ 惑星／組織関連 ❖

■ フェリカ航宙学園

銀河を巡る、学園宇宙船の本校は、女性航宙士を育成するための女子校として設立されました。船体は全長一キロメートル程の円筒形の大型船で、生徒数：二千余名／教員・運航要員：二百五十名が乗船しております。

■ 惑星タナイス

最近『モード』の傘下となった国です。自国の利益を上げるために、『モード』製の兵器を購入し、周辺の星々への侵略を目論んでいるようです。

■ タナイス航路警備局

海賊や密輸業者の取り締まり、事故航路救助を目的とした機関です。惑星タナイスの税金で運営されているものの、銀河航路条約により、ある程度の独立性を備えています。航路警備局はどこにもあって、同じような運営をされています。

■ フレカラ騎士団国

宇宙騎士団により設立された公国で、首長は騎士団総長フレカラ公。“ヘルセウス渦状肢の守護者”を自認しており、保有する大規模な艦隊戦力によって、百あまりの惑星を『モード』の影響から守護しています。

■ 宇宙海賊ブラックキャット

高度なテクノロジーと特殊能力者を揃えた海賊で、実行メンバーは少女たちを中心に、四十名程度と推測されますが、背後関係は不明。本校との関係を吹聴する輩も存在しますが、聡明な生徒の皆さんはデマに踊らされてはいけません。

第2章 学園宇宙船の日々

ヴィネーの操作により、妨害役の球体ロボが突進してくる。空中のルーリットはそれをひらりと躲した。幸先はいいようだ。

「うん、その調子で頼む」

「……」

空中のルーリットはコートのスラストを軽く吹かして、船尾に向かって格納庫の中を飛び始めた。飛来してくる妨害ロボットを避け、支柱をくぐり、コンテナを乗り越える。飛行速度は早足ほどの安全運転である。何回かロボットを避け損ねたり、鉄骨に手足をぶつけたりはしたものの、なんとか一往復はできた。

「集中できてる状態だと問題ない予感がします。それにしても……ああ、はちのこ……むっちりした舌触り、ぷちつと潰れる触感、ねっとり濃厚な味わい……待ちきれない……」

ヴィネーの食虫趣味に若干引きながら、ルーリットは考えた。

「……そ、そうだね。うん、動作に集中できてれば大丈夫なんだ」

「でも実戦では集中なんてしてられない予感がします。戦場で身体を無意識に動かせない人は使えないウジ虫野郎です。幼虫です。はちのこです……ごくり、じゅるる」

「……」

芋虫の味を思い出して涎を垂らすヴィネーから遠ざかるべく、ルーリットは訓練を再開する。そうして往復を繰り返し、多少の擦り傷やたんこぶとともに、五回目の船尾折り返し点ま

でたどりに着いた時。

ヴィイイイイイ〜ンンツツ……。

「ひうっ……な、何っ……っ?! なんなの……ヴィネー?!」

彼女のホットパンツの下、下腹部の真ん中あたりの体内に、ぶるぶると強い振動が生じたのだ。周囲の臓器や女性器官を揺さぶられる感覚に、思わず海賊少女の肢体が跳ねた。刺激に反応して下半身の筋肉がきゅっつと締めまり、足腰がぴんと反ってしまふ。

(こ、これ、隠し通信機? あ、あれが振動してるの? あっ…やっ、これ…)

ルーリットの体内には、右耳の下に埋め込んだ通信インプラントとは別に、遺伝子操作で作られた生体通信機が腰骨神経叢しんけいそう近くに仕込んであった。体内に通信機が二つあるのは、捕まった時に備えての海賊仕様である。敵は耳の通信機を見つかるだろうが、それに油断してこちらは見逃すだろう、という理屈だ。

ただし、隠し方が徹底している分使いにくい。インプラントの位置まで神経を延長すると発見されるおそれがあるので、インターフェイスが振動だけなのだ。動画どころか、文字も画像も送れない。

「集中を妨害すればいいわけなので、お頭の腹部通信インプラントにアクセスしてます」
ヴィ〜〜ヴィヴィヴィヴィ……。

「うくっ……こんな、こんなので訓練なんか……っ、あうっ……んくっ……」

彼女の体内で振動が性的快感へと成長し、肉体の熱情を確実に掻き立てていく。強弱のついた震動は恥骨に共鳴し、股関節にまで伝わって、関節内部がずきずきと熱く疼く。鋭敏な粘膜に覆われた尿道がびりびりと震え、弱い電流のような悦楽を生じる。括約筋がもぞもぞと蠢き、ホットパンツの下で淫核と花卉がびくびくと反応し始めた。

ごんっ！ 体内振動のおかげで、ルーリットは鉄骨を回避できずにぶつかつた。

「あつ痛あつ…ちよ、ちよつとヴィネー…くっ…止めてこれ…あんっ…」

「おやおや、どうやら思った以上に効いてるみたいですねこの淫乱海賊」

ヴヴヴヴン〜ッツ…。

がつん！ 今度は集中が途切れたせいでコンテナを避け損ねた。振動の愉悅に少女海賊の顔は早くも紅潮し、息が荒くなる。船内ということで、ビスチェやホットパンツの下にセカンドスキンをつけていないので、剥き出しの肌に汗が玉となって浮かぶ。

「く…このっ、誰が淫乱よっ…か、感じてなんか…くっ…はあっ、はあっ…え？

…ちよ、ちよつと、どこ行くの？」

格納庫外に通ずる通用函ツラツツに手をかけている姫カットが背中中で語る。

「そろそろ私より適任の妨害役が来る予感があります。お頭の訓練はそちらに任せたまうが合理的なので、失礼します。じゆる…では、極上の昆虫スィーツを待たせてますので」

毒舌少女が姿を消すと、ルーリットを苦しめていた生体バイブが一時停止する。

「適任って……誰？ はあ、はあっ……ていうかこんな状況、人に見られるなんて……」
一応着衣であるとはいえ、欲情した姿を他人に見られるという事態を想像して、ルーリは軽く顔を引き攣らせた。と、そこに聞き覚えのあるソプラノが響く。

「おっ姉☆様 あ~~~~っつっ!!」

「げっ」

前方のブリッジから凄いい速度でこちら目がけて飛翔してくるのは、ほっそりした肢体に金髪ツインテールを靡かせた、ピンクのセカンドスキン。その瞳も、頬も、唇も、弾けんばかりの愛情と肉欲できらきらと輝いている。

「っ：せ、セステイ!! あんた、なんでここに？」

「はあん……もちろん愛の力ですわお姉様っ、あとでミールワームのレアチーズケーキを奢らされる約束ですけど……ああん、もうそんなに発情されて……ごくり、たまりません」

「うわっ……ちよっ、危ないっ」

びゅんっ。

ルーリは抱きつこうとして高速突進してきた欲情妖精を辛うじて躲した。その通過跡に、甘い香りがわずかに残る。そのまま止まれずに明後日の方角へ飛んでいくかに見えたセステイだが、滑空しながら何かを腰のポシェットから取り出して、前方に放り投げた。ぽんと大きな音がして、一瞬のうちに、直径三メートルもの大きな風船が展開する。非常用の

バルーンバッグだ。

「……えいつ」

彼女はバルーンを大きくへこませて着地したかと思うと、そのまま足で蹴ってトランポリンのように反動をつけ、お姉様目指して再び飛び上がった。ルーリットには望むべくもない立体的な機動センスだ。

「……体育苦手の筈なのに、こういう時だけは運動神経発揮するのね……くっ……」

今度は海賊少女に背後から飛びかかる。ルーリットはそれを回避するべく、アームで手近な支柱を掴んで身体をそちらに引き寄せたものの、今度は相対速度が小さいせいで、セステイもすぐに軌道修正して追いかけてきた。見れば空中機動用にスラストベルトをセカンドスキンの腰に装備してきている。そしてセンスの差であつという間に勝負はついた。

「うふっ、すべては愛のなせる業です。お姉様、つつかまーえたっ♪」

「ぐっ……」

暖かく滑らかな感触がルーリの首に巻きついた。耳たぶを金髪がくすぐり、頬を甘い香りの息が撫でる。彼女の身体の下奥で、先ほどから燻くすぶっている炎が再び蠢うごき出すような気がした。トクトクと聞こえるのは、妖精少女の軽やかな心臓の鼓動。ではなく。

「ちよ、ちよつとちよつとセステイッ！ スラスト！ スラスト止めなさいよっ」

ベルトのスラストが吹かしっぱなしだった。絡み合つたまま二人は格納庫の隔壁に向か

って加速していく。

「あらん……この距離と速度だと、もう手遅れですわ。でもお姉様と一緒になら……」

「わ……うわあああああつっつっつん……!!」

灰色の格納庫隔壁がどんどん迫ってくる。とつさにルーリットは天才ドローン操作士を庇おうと、身体を入れ替えて壁との間に自分をねじ込んだ。

バウンツ……グワツツツツシャン……!

強い弾力がコート越しに彼女を包む。隔壁の直前でセステイがバルーンバッグを投げたのだ。巻き込まれた不運なロボットたちや工具類が吹っ飛ばされ、絡み合う二人はバルーンの反動で空にゆっくり放り出された。

「……じ、寿命が縮むかと思つた……ねえセステイ、大丈夫？ 怪我はない？」

「ああ……ありがとうございます……うふふふ……成功です！ 今の吊り橋効果で、お姉様は私にドッキドキ！」

「ば、バカ！ 別のドッキドキしかしいわよ！ つか自分でバラしてどうする！」

思わず突っ込むルーリ。アームの袖口から飛び出したプラスチックの人差し指がピンクの妖精にデコピンを囓ました。

「あいたつ……うふふつ、でもお姉様、そうは言ってもなんか顔赤くないですか？」

「え……？ あ、いや、これは別に、その……な、なんでもないっ」

先ほどまでのバイブ責めの影響を指摘され、慌てるルーリット。そんな彼女にセステイは何もかも知っているかのような悪戯な笑顔で微笑んだ。

「そうですか。ところで話は戻りますけど、お姉様は他のことをしながらでもゼロG活動できるよう特訓中で、そのために妨害役が必要なんですよね？」

「え、ええ、そうよ。だからどいて、セステイ」

「それでしたら、このセステイにとつておきのいい方法があります♪」

満面の笑顔で微笑む妖精少女に、ひたすら嫌な予感しかないルーリットは、危険人物を引きはがそうとアームを動かした。

「そ、そう？ でもどいてよ……手伝ってくれるならロボットかなんかで……」

しかし淫らな妖精はするりとアームをすり抜けて、ルーリットの背後に回り込んで首に絡みつくように抱きつく。重力があったならネックブリーカーをかけるかのような体勢だ。そしてほっそりしたその腕を海賊少女の身体の前に伸ばすと、黒ビスチェの盛り上がりをやわやわと愛でた。

ずきゅっ……ずきゅんっつ……。

先の振動のせいで充血したままの乳首が柔らかな掌に圧迫摩擦され、快美感が走る。

「ひあっ……ちよ、ちよっつとっつ、セステイっ……んんっ……やめ……っ……」

「他のことをしながら……つまり、セスとエッチしながらゼロG動作できるようになれば

いいんですわ。ああん……これこそお姉様との愛の共同作業♪」

「んなバカなっ……っ！ あっ……ひっ……」

セスティの両の人差し指の腹が布越しの乳首をころころと転がし、桃色の唇の吐き出すぬくやかな甘息が、先の責めで鋭敏化した耳をくすぐった。三点から生じる愉悅の波に、彼女の背筋がびくんと強張る。実のところ、ルーリットはこれまでも幾度となくこの淫らな妖精にスキンシップの域をかなり超えたことを乳房中心にされてきており、彼女の胸や首筋は相当開発が進んでいるのだった。

「ほら、好きこそ物の上手なれっていいますし、お姉様エッチ好きですよね……はむ」

「そ、そんなわけなっ……んんっ……っひうっっ……！」

耳たぶに、舌と唇の生暖かさが触れたかと思うと、次の瞬間に甘噛みされる。ほのかな痛みと電流のような快感に、海賊少女の肢体がびくんと仰け反る。生体パイプから一時解放された女性器官が、じれったげにホットパンツの下で軽くひくつき、収縮する。

「んうっ……はっ、はあっ……も、もうやめてセス……こんな場所、人に見られちゃう……あとで、部屋で……ね？」

快美感に手足を震わせつつ、お姉様は責め手を説得しようとした。多少アブノーマルながら自分を慕ってくれるこの少女のことは嫌いではないのだが、しかし。

「ふふっ駄目ですよ。お姉様だって、部屋の中の時より興奮してるじゃないですか。ほ

ら、ほらほらあ、服の上からでも乳首勃たつてるの、はつきり分かりますよ」

困ったことに、この妖精少女は室内よりも人前や外での淫行が大好きなのだ。その白魚のような指が合成レザー越しに乳首を探り当てたかと思うと、ぴんと弾く。

「ひあつっ……あつあつあつっ……せ、セステイっ、駄目、それ……っああつ……」

輪郭に沿ってくりくりとしごき立てる。さざ波のように寄せては返す快感が、海賊服に包まれたルーリの身体を震わせる。香かぐわしい汗が早くも玉のように全身に浮かび始めた。

「そうそう。動かないと訓練にならないのでしたっけ」

軽い動作音とともに、セステイのストラスタが動作し、二人にゆるりとした加速を与えた。周囲の鉄骨や機械が後方へゆつくりと流れ始める。無論責め手は止まらない。

(あ、あくっ……危なっ……はあ、はあ……もう、セステイつたらこんな、こんなこと、調子に乗って……お、覚えてなさいっ……あつ、あひっ)

進路にコンテナが迫ってくるのを見て、快楽に苛まれつつもルーリットは海賊コートのストラスタを操作して、なんとか回避した。続いて連続する鉄骨の間をくぐる。だが。

ちゅっ、ちゅっ、ちゅっ……

「ひあつ、ああつ、あつっ……」

セステイの桃色の唇が遠慮なく首筋をついばむ。その度に疼くような電流が流れて、ルーリの背筋がびくんと跳ねる。白い手指が軟体動物の触腕のように広がり、すっかり充血



した乳房を布越しに掴んでゆるゆると揉みしだいて、熱く透明な快感を絞り出す。

「あうっ……こ、こんな訓練なんてっ……」

絶え間ない快楽の流れの中、それでも海賊少女の理性は必死で踏みとどまり、なんとかコートの腕やスラストを操作して障害物を回避し続けた。そこに悪戯な妖精が微笑む。

「ふふっお姉様、コツが掴めてきました？　じゃあ妨害レベル上げますね♪」

ヴッヴヴヴヴヴ……ッッッ……。

「ひっあひっっ……ちよ、そ、それ駄目つやめて、セッ……ああつああああつっつ」

再開した胎内通信機の振動に、ルーリットは充血器官を刺激されて絶叫する。下は太腿を経由してつま先まで、上は背骨の中を通って頭蓋のてっぺんまで、ピンク色の疾風が駆け抜けた。肢体はがくがくとわななき、オレンジの髪が渦巻き乱れる。

「駄目……駄目っらめっっ……こんな、こんなところでっ……」

「感じてるお姉様って、とっても可愛い♪　でも、もっとお可愛いお姉様が見たいな」
陶醉したような口調のセステイ。その時。

トクトクトクトク……。

二人の前方三十メートルほどの空間を、コンテナを牽引した飛行ターレットが軽快なエンジン音とともに横切っていった。それは自動操縦ではなく、海賊科の生徒と思しき装甲スーツ姿が運転台に立って、円筒形のハンドルを操作している。

「……ひっ!! い、い嫌あつ……っ……んんんっつ……」

ルーリットは出かかった悲鳴を必死で飲み込む。幸いにして、気づかれなかったようだったが、他人の存在を思い出させられて、彼女の心臓は破裂しそうなほど高鳴った。恐怖と興奮にどつと汗が噴き出し、手足がひくひくと震える。

「あら、んふふっ……お姉様ったら超どきどきしてますね♪ 人に見られるかもって思っ
て、興奮しちゃいました? もう、エッチなんだから」

優しくからかうような口調のセスティ。隠れていても、その指は悪戯を続けている。

「ち、違……だつて……ああつ、はあつ、はあつ……んんっ……や、やめて……見られちゃうっ」

「そうだ。折角だから、見られないよう隠れるのも特訓の課題に追加しましょう」

そう言うときセスティの指が盛り上がった双丘の合間をつつと走った。

「な、何……あ……ひやつつ、だつ駄目っつ」

ぱちんっ。

的確にビスチエのフロントホックを探り当て、ひと思いに外してしまった。ぷるるっつと弾みながら三たび解き放たれる麗しき美乳。無重力のため、その形は垂れることなく見事な円対称の釣り鐘となり、乳揺れはゆるん、ぷるんと長く続く。やや濃いめのピンクの先端はすっかり勃起しきつていて、揺れにあわせて汗の雫をまき散らす。

「ちよ、ちよつと……いやつ、戻してよっ」

第3章 ワレカラの戦士キリア

「お頭……じゃなくて社長、俺らは今は海賊じゃないっしょ」

（ああ……こんな奴に、こんな下劣な悪党などに……私の、私の純潔を奪われるなんて……いい駄目、駄目ですわ、辱めごときに気弱になるなんて……しつかりしなくては）

獣の表情でのしかかる中年海賊に、キリアは顔を真っ赤に染め、眉を怒らせて叫ぶ。

「そっ……そんなものはただの膜にすぎませんわ！ たかが膜一枚で私をどうにかできるなんて勘違いなさらないで頂戴！ さ、さあつ、犯すならさつさとしなさいっ」

「ほほう、この期に及んで強がりか。これはこれで犯しがあるってもんだな。どれ」
男の裸の尻と背中に力こぶが盛り上がり、肉茎に力が込められる。

ずぐぐ……ぐぐぐ……ぎゅちいつつ!!

組み敷かれた乙女騎士の身体の奥で、ペニスの圧力に負けて何か弾けちぎれ、熱い痛みが走った。陵辱の剣がそのまま一気に根元まで押し込まれる。

「っああああああああっ……!!」

焼けるような苦痛。それよりも下劣な男に弄ばれる屈辱。純潔の喪失。

キリアは感情の叫びを止めることができなかつた。火照った目元に涙が浮かびそうなのを必死でこらえる。喉の奥から恥辱と苦しみの喘ぎが漏れる。

「ひゃっはーっ、おめでとうございますお頭。お姫様を女にしちゃいましたねえ」

「うひひっ、ずつぷり刺さってますお頭。あーあ可哀想に、血が出てるよ姫様あ」

るようにして引き抜くと、痛み混じりの快感がわき起こった。

(痛い、痛いのにつ……何故ですの、私……気持ちよくなり始めてるなんて……)

陵辱者は入り口付近まで引き抜いてから、再び一気に根元まで撃ち込んできた。鋭敏粘膜を強く擦られたうえ、うら若い子宮口を固い勃起物でノックされる。その被虐の衝撃波が横隔膜にまで達したかのように、キリアの白い喉から悲鳴が迸った。

「ひつつ……そんな急につ……あひつ、あああああああーっ!!」

「くは、はははっ、いい鳴き声だぜお姫様。もつと鳴かせてやるよ、おらっ」

じゅぷぷ……ずぬんっ!!

煮えたぎるような海綿体が再び引き抜かれ、容赦なく子宮口まで叩き込まれる。その反動で結合部から、血液が何割か混じった破瓜粘液が溢れ、飛び散る。開通したばかりの肉路を休む間もなくピストン蹂躪されて、キリアは悲鳴を上げ続けた。

「ひあああああつっ……あつあつ、そんなっ深いっ……ーっ!!」

穢され、弄ばれる姫騎士の貌を、ワルナスビは興奮に目を血走らせ、にたにたと唇を歪めて眺める。高貴な乙女の煩悶の様を目で堪能しつつも、その毛深い身体は杭打ち機のように腰を振り、汗と粘液を飛び散らせて獣悦を貪り続けた。

じゅぷるるっ……ずぬんっ……ちゅぷっずちゅっ……ずにゆるっ……じゅぬっ……。

二人の子分たちもたまらなくなってきたのか、いきり立った雄柱をしごきつつ、空いた

手でキリアの巨乳を弄び始めた。勃起乳首ごと、ぐいっと鷺掴みにすると指がずつぷりと埋まる。そしてそのまま洗濯物を押し洗いするかのようには前後左右に押し揉み、転がした。

「おほほっ、やっぱり最高のおっぱいだぜ、おとお頭っ次俺、次俺っすよっ」

「ふひっひっ馬鹿、俺だよ俺っ、お前はチンポ一回休めてろっ……」

興奮状態の乳房を荒々しく扱われて、キリアの身体にはびりびりと痺れるような悦楽が流れ込んだ。苦痛から歓喜へと転じ始めた性愛器官への刺激とあいまって、三カ所からの同時の快感に、騎士姫は身体を強張らせ、喉を震わせる。

「らっ、乱暴にしないでっ……！ つ……くあっ、ひっ、あああああああつ……」

無意識のうちに腰が持ち上がり、腿や下半身の筋肉がぐつと緊張する。そして雄肉の嵌まり込んでいる括約筋の肉筒が、きゅつきゅつと断続的な伸縮運動を開始した。

その作用で、押し込むときは亀頭山腹が締めつけられ、引き抜くときにはカリの鋭敏な縁を肉の輪に引っかけられる。悪徳海賊商人のペニスを受ける快感は先ほどよりも強いものへと変化したので、ラストスパートとばかり大きなストロークで暴れ始める。

「ふはっははっ、いいぞいいぞっこの淫乱騎士めっ、そろそろ、そろそろ射精してやるかな、はっははっ、もちろん中だ、はっ、マ○コの中で出してやるっ」

「そりゃいいやっ、ひひひっ、俺たちも淫乱お姫様にごちそうしようぜっ……」

極度の興奮に目を見開き、鼻孔を膨らませた醜い表情でワルナスビが叫ぶ。屹立をしごく手下たちも歯を剥き出した獣の顔で喚く。その声に、犯された拳句、不本意な妊娠をさせられる恐怖を覚え、キリアは悲痛な悲鳴を上げた。

「ああっひっあああつ、嫌っ、嫌あつ、中は、中はやめて頂戴っつっ……!!」

「はははっ駄目だ、中出しだっ、おっおっ、おっおっ出る、出るぞっレリーズ！」

彼女を組み敷く獣は嘲るような言葉を投げつけると、身体を仰け反らせ、ひと際深く腰を撃ち込む。キリアは肉笠が大きく膨らみ、同時に体内で何かが弾けるのを感じ。

どくんっつ……。

ぶびゅるるるるっつっつ……。

彼女の中で、熱い何かが受胎器官に向けて吹き出し、揺さぶり、染み込んでいく。

「ひあああああああつっ!! ……出てますわっ……私、中で……中で射精されちゃって
ますの……あああ、私、私………ああああああつっ!!」

キリアは絶望と快楽の入り交じった悲嘆の声を上げ、白い肢体を震わせる。

だが、悲痛な表情とは裏腹に、彼女の肉体は射精に強い反応を示した。肉路が搾り取るかのように収縮する。腰がつき上がり、ぶるぶるとわななく。

「おほっひっひひっ……来た来たっ、おひひひっ」 「おほおほおっ……!!」
びしゅるるるっつ………びゅぶぶぶつっつ……。



第4章 少女海賊危機一髪

「ふひひひつ、最高だよ海賊ちゃん。今売り出し中の海賊ブラックキャットが、露出狂のエッチな娘だったなんて、お客さんもきつと大喜びさ。あ、折角名乗ってもらったけど、長いからこれからも海賊ちゃんって呼ぶね」

コソロは手にしたタブレットに絶叫シーンをリピートして、それをルーリットに見せつける。しかしその屈辱に彼女ができることは、疲労した身体の力をかき集めて、きつく睨み返すだけだった。

「疲れてるところ悪いけど、次の撮影行くよ。スケジュールが押ししてるんでね。ひひつ」
ルーリットからカメラが遠ざかり、ライトは照らす範囲をぐっと広げる。そして、光の周囲の暗闇から何か大きなものが姿を現した。

カサカサカサカサ……。カチッ、カタッ、カチッ……。

「何……こいつら……」

まず見えたのは大きな、直径二メートルはありそうな半透明な甲殻質のドームだ。複数の体節で構成されていて、中に内臓やら血管やらが透けて見える。楕円形のサラダボウルを伏せたようなその身体の下側からは、細長い、といっても人の腕ほどの太さの多関節の節足が何十本も突き出して、ざわざわ蠢いていた。頭部はドーム状の胴体に埋もれているらしく、前方の両側面に一对の大きな複眼が虹色に光っているのが透けて見える。

続いて同じようなエイリアンがもう一体出現した。どうやらショーの責め役に同族を使

うとカラッパの機嫌を損ねかねないが、かといって人間や軟体系種族では感情移入できずに興味をなくされるかもしれない。そこで、同族ではないが、多少共通項のある節足系種族を、という人選のようだ。もともと肝心の主賓は中座しているのだが。

「この二人、ポドコパとミオドコパは異種族モノAVではちよつと有名な男優さんたちなんだ。結構ギョラ高いんだから、頑張つていいビデオにしてね、海賊ちゃん。ひひひひひひつ……それじゃ、スタート」

「フフフ……ナカナカ美味ソウナ女ダ……若クテ、イキガヨサソウダ」

「海賊ガ相手ナラ、ナニヲシテモイイナ……ヒサビサノあーす系人類ダ」

平板な人工音声でエイリアンたちが喋る内容は、多分ビデオ撮影上での演出なのだろう。それでも、自分よりも何倍も巨大な相手が迫ってくる様子は不安を掻き立てる。ルーリットは異星人に偏見があるわけではなかったが、身動きの取れないこの状況で得体の知れない相手に近寄られるのは、本能的な恐怖感があった。

「ちよ、ちよつとこんな……よ、寄るなつ……ひつっ、嫌つ」

二体のエイリアンが、甲羅の頭部から伸びている、長くしなやかな触角で少女海賊の身体を探り始めた。節くれ立った硬質な感触で、首筋から喉の周りを、値踏みするかのような動きで撫でられる。肩から胸、背中を、虫が這い回っているかのような不快感を覚える。汗ばんだ脇の下を特に念入りにまさぐっているのは、触角が嗅覚を備えているためではな

いかと思いつつて、ルーリットは軽く羞恥した。

触角はお腹をくすぐつてから、お尻を経て、ついに脚の間に差し込まれた。脚を締め、侵入を拒絶しようとしたのだが、その細さのせいで効果はなかった。内股をくすぐるような感触とともに固く節くれ立った物体が入り込んでくる。

(や、やめてそんな……っ……そんなところ、調べたりしないで……あつ……)

休まない責めのせいですっかり腫れている秘部を、節々でしごくように前後動されると、早くも次の快感がぴりぴりと放たれ、乙女はわずかに腰をくねらせてしまう。

ひとしきりまさぐつてから、二体は触角を戻し、甲羅の下にある口器でそれを舐め始めた。複雑な形の付属肢が、自身の触角を丹念にしごき、ブラッシングする。

「フム、ナカナカノ味ノヨウダ。ダガマズハ、少シ楽シマセテモラウカ」

この手の生物にとっては当然の単なるクリーニンング行動なのだが、ルーリットは、触角に残った自分の愛液を味わわれていると知って、顔を背けた。

ザザザザアア……。

二体は複数の鎧板で構成されている甲羅を弓なりに変形させて、仰け反るような格好で前半身を大きく持ち上げた。ルーリットの目前に、わさわさと動く何十本もの多関節の脚が突きつけられた。脚には細い剛毛がまばらに生えており、それに対応して甲殻にも微妙な凹凸がついている。

「ひっ……な、何をしようっていうの……あっっ」

蠢く脚々の中から飛び抜けて細長い肢が何本も飛び出し、海賊少女の鼻先に突きつけられたのだ。表面の色は薄めの青灰色で甲殻の下の血管が透けて見える。太さは三センチ前後、長さ二十センチくらいの関節が数個連なった構成だ。ただし、先端の短い関節が妙な丸みを帯びており、鋏のような開閉構造らしき割れ目がある。

その、丸い先端部がルーリットの身体に、頬や喉、乳房や太腿に、ぐりぐりと押しつけられてきた。先端部は他と異なり、脱皮直後のカニの甲のように若干柔らかく、弾力性を備えている。その感触に彼女は困惑しつつ、剛毛の微妙なちくちくに弱い快感を覚えた。

「へっへへへっ、海賊ちゃん。そいつはね、精子を渡すための生殖器官、ようするにペニス、陰茎、ちんぼ、マラだよ。人間と違って何本も生えてるうえに自由自在に動かせるんだぜ。びっくりだろ？ 萎えたりもしないしな」

（そ、そんなこと言われたって……こんなもんで、何をさせる気なのよ……普通の人間の……だ……ってよく見たことないのに……あ……ひっ……！）

突然ずきんと走った鋭い快感に、海賊少女の声がうわずる。甲殻ペニスの一本が、亀頭に相当する先端関節をばかっとなき、その鋏で乳首を軽く捻り上げたのだ。それが合図となって、ポドコパとミオドコパの合計十二本もの多関節ペニスが一斉に蠢き始めた。

「マズハ口デ奉仕シテモラオウカ。一本ズツ、全部シャブッテモラウカラナ」



上げ、変形させ、ごつごつした関節で摩擦し、愛撫する。

「フフツ、イイ、ナカナカイゾ……デハ、マズハコレヲ飲マセテヤル。ウムツ……」

どくつ、どぶぶつ……！

「んんんんつつつつ！ げほっ、げほっ……」

唐突に、ルーリットの口内でエビ味の塩辛い液体が弾けた。彼女の体温よりやや低い温度のそれは苦味が強く、異物の除去と同時に咳き込んでしまう。

「おっと早くも第一チンポ汁か」「まだまだ沢山飲ませてもらえないからな、ひひひっ」

意地悪く笑いながら、撮影係たちが野次を飛ばす。どうやらこのエイリアンにも射精前の先走りがあるようだが、人間のそれとは違って一気に迸り出るものらしい。

「イマノハ精液デハナイ。前駆液ダ。コレデ終ワリダナンテ思ウナヨ」

疑似射精した巨大甲殻類は、機嫌よさそうに触角を振り回した。すると、乙女の息の荒い唇に、休む暇もなく二本目の節足ペニスが押し込まれてきた。同時に、両脚の間にも節くれ立った雄根が数本這い込み、花弁をソフトに摘む。

（うぐつつ……っ苦しいっ……んんんんつつ……こ、こんなっわけの分からないエイリアンなんかに、辱められるなんてっ……ひっ、そんなところっ、あっ、引っ張らないで……）

鉄脚により花弁を広げられ、中の果肉をごつごつした甲殻で擦られて、痺れるような快感信号が背筋を走り抜けていく。

口内で跳ね回る甲殻亀頭の苦しきにもかかわらず、ルーリットの肉体は本格的に欲情を開始していた。つねられていた乳首は大きく勃起し、両脚の間で、蠢く節足ペニスとの接触面からかすかに水音が響いた。快感に反応してか、舌がおずおずと動き始める。

どぶっ、どびゆるっ……！

「フハッ、ハッ……マダマダ、マダマダ次ガアルンダゾ」

（げほっげほっ……うっ、またっ……ひうっ……）

変わった味の粘液が再び少女海賊の喉に流し込まれ、今度は最初ほどの拒絶感はなく、淫液は味覚に受け入れられた。と思っただらむせる間もなく次のペニスがねじ込まれてくる。その間も他のペニスたちによる乳首と女性器官への侵食は続けられ、乙女の肉体は確実に四度目の辱めの山を上りつつあった。

「んんむむっ……んぷっ、んちゅっ……ど、どうしてっ……んん……ぢゅぼっ、ぢゅっ、なんだか私、私っ……むぢゅ、むぼっ……身体が……熱く……んむっ、んぢゅ、んぢゅる……」

彼女の海賊帽子の下の悶え顔を、コソロがいやらしい笑みを浮かべて覗き込んでくる。

「どうかな海賊ちゃん。気持ちよくなってきた？ 実はさ、この二人の体液、売れっ子エイリアン男優だけのことはあつてさ、人間への媚薬効果があるんだよ。ひひひひっ、海賊ちゃんは二発飲んじやったから、そろそろ熱くなってきたらよ。」

（！ なっ……そ、そんなものっ……くっああっ……身体がなんだかっ……うううっ）

スが口から引き抜かれるが、海賊少女には、意のままにならぬ肉体に絶望する暇も、愉悅に酔いしれて恐怖を忘れる時間も与えられなかった。

きゅちゅつ……。

「つつひつつつつ……くああああああつ……！」

雷に撃たれたかのような刺激がルーリットの肉体を股下から脳天までを突き抜けた。一連の快楽に勃起しきつた淫核をベニス鉢でつねられたのだ。目の前に、脳みその中に虹色の星が炸裂する。全身を硬直させ、背中を、手足をがくがくと震わせる。

つねり、引つ張り、離し、捻る、擦る。

「あああつつぎつ、じえいえす、つつあああああおーよん、止めっひいつつ……！」

最も鋭敏な部分を固い甲殻で挟まれ、刺激されるといふ強烈な快感に、ルーリットは絶叫し、拘束具をがちゃがちゃ鳴らして身悶えた。

「イイ感ジップリダナ。アース系ノ雌ノ中デモ、コウ反応ノイイノハソウハイナイゾ。デハ、モウスコシ楽シマセテヤロウ」

がさつ……がさがさがさつ……。

節足男優たちは、長細い多関節ペニス群をすべて展開すると、総数十二本をもって虜囚乙女の全身に擦りつけ始めた。胸の谷間を、乳房の下の窪みを、汗ばむ脇の下を、苦悶の筋肉の浮かび上がった腹を、震える太腿を、ごつごつしたキチン質の塊が摩擦する。

この続きは製品版をご購入の上、
お楽しみください。

編集・発行

株式会社キルタイムコミュニケーション

〒104-0041 東京都中央区新富1-3-7ヨドコウビル

TEL03-3555-3431 (販売) / FAX03-3551-1208

※本作品の全部あるいは一部を無断で複製・転載・配信・送信したり、ホームページ上に転載することを禁止します。本作品の内容を無断で改変、改ざん等行うことも禁止します。また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。

©KILL TIME COMMUNICATION Printed in Japan

<http://ktcom.jp/>

仙獄学園戦姫

ノブナガツ! comic



信長が、秀吉が、義一が、エツチにバトルにと漫画で大活躍！
もうひとつの『仙獄学園戦姫ノブナガツ!』がここにある!!

待たせたら

毎月中旬
発売!!

18歳未満の方は
購入できません

18

漫画：老眼
原作：斐之嘉和
キャラクター原案：SAIPACO

戦うヒロインが屈服させられちゃうアンソロジーコミックス
『闘神艶戯』偶数号にて連載中!

編集・発行 キルタイムコミュニケーション

〒104-0041 東京都中央区新富1-3-7ヨドコビル TEL:03-3555-3431 (販売) FAX:03-3551-1208

<http://ktcom.jp/>

あとみっく文庫最新刊

ちょっと大人のライトノベル / 毎月下旬ぞくぞく刊行中!! 定価/690円(税込)



全国書店で
好評発売中

**少女天使の暴走が
平和な学園生活を破壊する!!**
シリーズ急展開のバトル&エッチ!!

「小説…さかき傘 / 挿絵…天海雪乃」

思春期なアダム4 聖域の崩壊



「小説…さかき傘 / 挿絵…天海雪乃」

呪詛喰らい師2
[小説:蒼井村正 / 挿絵:或十せわか]

全国書店で
好評発売中

**凄腕退魔士の咲妃を
牝奴隷に墮とす新たな敵の登場!**




全国書店で
好評発売中

**クトゥルフの娘たちが
学園祭でメイドさんに変身!?**
ルルらちに新たな邪神が這い寄る!

「小説…羽沢向 / 挿絵…ヒエール☆よしあ」

魔海少女ルルイエ・ルル2

既刊LINEUP

- 仙道学園戦姫 / プナガリ ①~③
- ビルグリムメイデン ①~③
- 不死の吸血鬼がDSのご主人様を募集しているようです

- 思春期なアダム ①~③
- 呪詛喰らい師 [カースイーター]
- 無敵の姫騎士がPMに目覚めたようです
- 宇宙海賊学園ブラックキャット



仙獄学艶戦姫ノブナガツ!

第一次水着大戦

超能力者の少年少女たちが集う特殊な学園——西開学園、北宮学園、聖ジョウント学園。それぞれが仙獄島の覇権を求め、ちょっとHな三つ巴バトルの幕が開ける!! 平和なはずのミスコン勝負は、暗殺騒動が起きたり水着美少女が縄で緊縛されたり触手生物が現れたりで、とんでもない方向に進んで——!?

小説●**斐芝嘉和**
挿絵●**SAIPACo.**



全国書店で
**好評
発売中**

仙獄学艶戦姫ノブナガツ! 弐

北宮学園生徒会長選挙戦

絶対的な権力を誇る北宮学園の生徒会長の座を競い、義元、氏康、晴信ら北宮三大美女はもちろんのこと、長尾く美姫〉景虎、宇佐美く奈々〉定満といった新ヒロインも加わり、エッチにバトルを繰り広げる!! 敗北したヒロインは勝者の奴隷に!?

小説●**斐芝嘉和**
挿絵●**SAIPACo.**



全国書店で
**好評
発売中**



仙獄学艶戦姫ノブナガツ!

信玄、出陣!

北宮学園の生徒会長選挙戦も大詰め。肉欲に堕ちた義元と氏康を従えた景虎は、更なる戦力の拡大を図る。そんな中、信玄は元凶である按針を倒そうと信長に協力を求め、聖ジョウントのエリザは封印された化け物を発見する。様々な思惑が交錯する物語は佳境を迎え、信長は姦落の危機に陥るのだが!?

小説●**斐芝嘉和**
挿絵●**SAIPACo.**



全国書店で
**好評
発売中**

BLANGEL

輪になりて踊る患者の夜

月下の街を紅に染め上げる、鮮血のサスペンスアクションの幕が上がる! 吸血姫アリシアは異形の生物「被験体」の影を追って戦い続けるが、予想もしない反撃に遭って虜囚の辱めに晒されてしまう!! 『隔月刊コミックヴァルキリー』の長期連載人気漫画が待望の小説化!

小説●**夜士郎**
原作・挿絵●**渡瀬行人**



全国書店で
**好評
発売中**



思春期なアダム

謎の少年ルシアの手で“蛇眼”の力に覚醒した藤田陸月。世界の半分を支配する秘密を秘めた彼をめぐり、天使と悪魔そして人間による争奪戦が始まった！ ごく普通の少年の日常は一変し、美少女天使のエンジュや憧れの同級生伊部草マキナまで巻き込み、激しくそしてエッチに胎動する！

小説●さかき傘
挿絵●天海雪乃



全国書店で
**好評
発売中**

思春期なアダム 2

背後をならう者

「世界の半分を支配する力」を秘めた“蛇眼”の持ち主として、天使たちに保護されたごく普通の少年、陸月。それでも普段通りの学園生活を送る彼の前に、新たな刺客が現れる…。天使・悪魔・人間の三つどもえのバトルはより過熱！ “蛇眼”をめぐり迫り来る美女に美少女＆美少年(!?)たちの誘惑で、陸月も新たな局面に…?

小説●さかき傘
挿絵●天海雪乃



全国書店で
**好評
発売中**



借金お嬢クリス

42兆円耳を揃えて返してやりますわ

異世界の住人・ジグレットの奸計で父を失い、突如無一文となった令嬢クリス。なんとその借金額は42兆円! クリスは借金取り立てに現れた武装精霊ガーランドの力を借り、ジグレットへ借金返済の戦いを挑むことに! 果たして、傲岸不遜な令嬢はセレブな日常を取り戻し、己の貞操を守ることができるのか!?

小説●筑摩十幸

挿絵●了藤誠仁

全国書店で
好評
発売中

借金お嬢クリス2

42兆円踏み倒してやりますわ

セレブから無一文に転落したクリスは、借金を返すために今日もバイト&バトル!? 水着コンテストで痴態を晒し、工事現場で肉体労働&ガーランドからの肉体調教と、八面六臂の活躍(?)に加え、ライバルのロリ令嬢、サキも加わり、エッチ&借金バトルはより熱く燃え上がる!

小説●筑摩十幸

挿絵●了藤誠仁

全国書店で
好評
発売中

コミックス同人誌版も発売中!

全国の同人誌ショップ、キルタイムコミュニケーション通販にて取り扱っております。

KTC サイト <http://ktcom.jp/>



title:

ノブナガ繚乱!

lineup:

『明智の策略』

トキサナ

『DSの流儀』

chaccu

『生徒会長前哨戦?』

天道まさえ

title:

発情期なアダム

lineup:

『いつもの学園生活』 天道まさえ

『天使の誘惑』 ウメ吉

『ELECTRIC LOVE』 空木次葉



電子書籍版もあります!

各種ダウンロードサイトにて発売中! ※18歳未満の方は購入できません。

キルタイムコミュニケーション オフィシャルサイト

<http://ktcom.jp/>

- ◎雑誌、コミック、小説の**通信販売**もやってるよ!
- ◎二次元ドリームマガジン・コミックアンリアルの**バックナンバー**も買えるよ!
- ◎**ジャンル別**で作品も選べて超便利!
来かねる場合がございます。い場合、お手数ですが再度お問い合わせください。
- ◎二次元編集部**の愉快的Blog**も更新中!

VALKYRIE



<http://www.comic- Valkyrie.com/>

cranberry



<http://www.cran-berry.com/>

mille-feuille
ミルフィーユ



<http://www.mille-feuille.jp/>

**モバイル二次元
ドリーム**



<http://www.2d-dream.jp/>



KTCの戦うヒロインオンリー漫画雑誌! 18禁ではないからこそ表現できるドキドキがある!!

二次元ドリームノベルズがアニメにも進出! 新生ブランド・クランベリーをよろしく!!

二次元ドリームノベルズから生まれた美少女ゲーム! 「ミルフィーユ」ブランドにて続々登場!

二次元ドリームノベルズが携帯電話で読める! 携帯サイト限定の書き下ろし小説もあるよ!